

イオンモール白山

AEONMALL HAKUSAN

No. 05-079-2023作成

新築
物販/飲食

発注者	イオンモール株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

五感を刺激する“ウェルネス”アトリウム

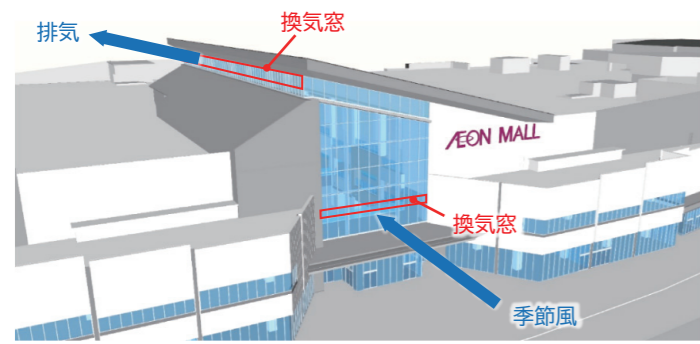
北陸最大級の郊外型ショッピングモール。白山市は全域が「白山手取川ジオパーク」に認定されており、白山扇状地の自然の恩恵により、近年は住みたい街ランキング上位に挙がる若い世代の街である。外観は「白山の自然」と「街の若々しさ」を表現するために、山並みと都市的な街並みとのハイブリッドな群造形としている。内部は冬の寒さと降雪、多雨に備え、中央の街路を大屋根で覆い高さ25メートルの全天候型のアトリウムとした。豊かな緑の配置と自然換気、最新のテクノロジーにより、光・風・緑・音・香りなど、あらゆる人へのウェルネス実現のため、人の五感を刺激する場を設けた。中央エントランス周辺ガラススクリーンは、ショッピングモール内の賑わいを「外」に伝える光のランドマークとして機能する。



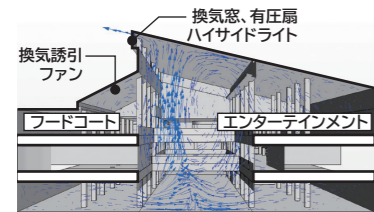
緑豊かな街路空間

風：よどみなく新鮮な空気をつくり心地よい流れを感じさせる中央アトリウム上部のハイサイドライトを開放し、大吹抜を利用した重力換気で外に居るかのような心地よい風の流れをつくる。機械換気との併用により通常の2倍程度の換気量を確保した。空気齢が若く、よどみのない大空間は、コロナ禍以降の集客施設において滞在者へ安心感を与える。木立の間を駆け抜ける風を肌で感じ、訪れた人がリフレッシュできる快適な居場所となることを意図した。

光：自然光と演出光でゆらぎをつくり時の移ろいを感じさせる北面の大きなガラス開口と南東ハイサイドライトからの自然光により時間の経過による光の移ろいを感じ、夜間は色温度を落としたライティングへ変化することでサーカディアンリズムを整える健康的な空間とした。昼光を加えた照明シミュレーションで年間の照度分布を確認し、ゾーンごとの照度センサー制御で自然光と人工光をハイブリッドした、外光と連動する光環境をつくり、省エネルギー化を図っている。

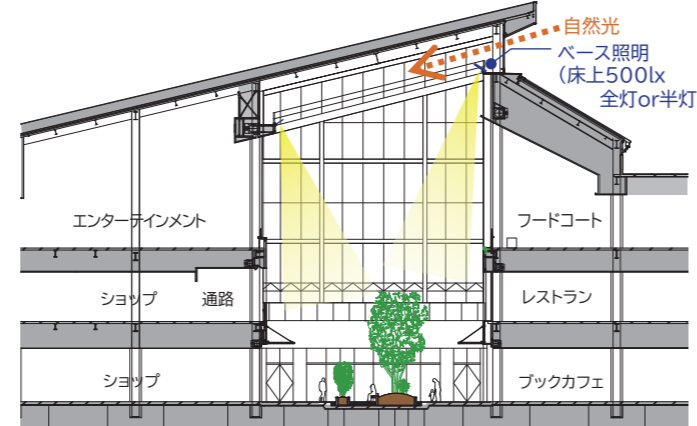


ハイブリッド換気



CFD解析

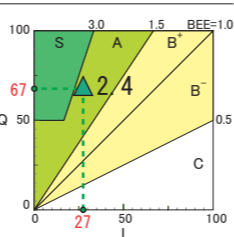
自然+機械ハイブリッド換気
数値流体解析（CFD）により窓開放に伴う自然換気量と機械換気のハイブリッド効果の検証を実施。



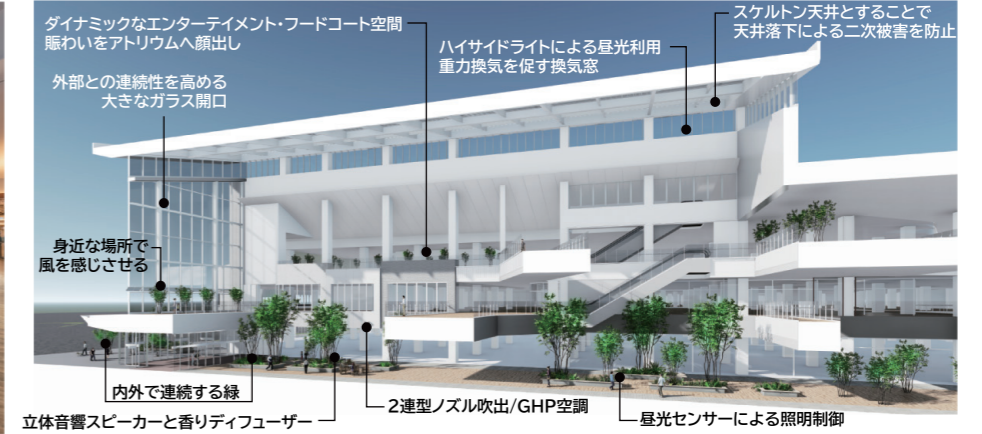
自然光+人工光のハイブリッド照明

中央アトリウムの照明は、エリアを2つに分割。大開口とハイサイドライトからの移り行く昼光の変化をセンサーでとらえ、1階の床面照度が500lx以上確保される間はベース照明のみ点灯（半灯）、500lxを下回ると人工照明が全灯する制御とした。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI	Aランク
所在地	BEI (通常の計算法)	BEE=2.4
竣工年	LCCO ₂ 削減	2016年度版自己評価
竣工年		
敷地面積		
延床面積		
構造		
階数		



白山連峰を背景にして建つ（北側全景）



全天候型の中央アトリウム

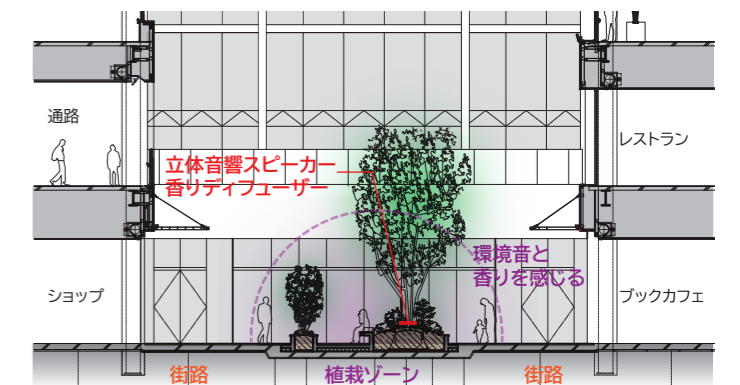
緑：大小さまざまなスケールで包み込み、安らぎをあたえる6～8mの高木が連なるモール内の緑陰空間は、在来種による約30種以上の植栽で構成し、緑視率を高めるバイオフィリックデザインを試みている。みどり豊かな空間は、雨の日も楽しめる街路を出現させ利用者が快適に、健康に過ごせるウェルネスモールに寄与している。外構の緑と連続し、大小異なる樹種で起伏に富んだ木陰は、様々な休憩場所を設え、地域の憩いの場となる。

音・香：森の中にいるかのような特別感を演出する植栽帯に近づくと、鳥のさえずり・川のせせらぎ等の環境音と、アロマの香りが出向かえる。植栽帯内に立体音響スピーカーを設置し、植栽ゾーンにだけ環境音が聞こえるようにしている。植栽立上りのRC天端は木笠木で覆いベンチ利用を可能とし、買い物途中の休憩スペースとして機能する。建物内に居ながらも、森の中にいるかのような特別感を演出している。



緑視率を高めた在来種による緑陰空間

屋内で樹木を生育させるためには光合成が必要不可欠となる。年間の自然光照射度を検証し、光合成に不足する光をベース照明（床面500lx）と育成用照明で3000lxを確保。営業時間外に約5時間照射し光合成に必要な照度を確保している。



植栽ゾーンにだけ感じる音と香り

高木足元に立体音響スピーカーと香りディフューザーを設置。視覚に加え、樹木周辺のみ聞こえる環境音と香るアロマを聴覚・嗅覚で感じて、感覚に訴える仕掛けとしている。

設計担当者
統括：高田輪太郎
建築：岩崎庸浩、森本栄貴/構造：原 健二、小野寺勉、村上亮介、華田健人
設備：太田和好、谷口和信、村松繁紀、永山浩二

- 主要な採用技術（CASBEE準拠）
- Q2.3. 対応性・更新性（高階高・高天井、純ラーメン構造）
 - Q3.1. 生物環境の保全と創出（外構緑化、室内緑化、在来種による植栽、ABINC認証）
 - Q3.2. まちなみ・景観への配慮（新たなシンボルの形成、扇状地の等高線に沿った建物配置）
 - Q3.3. 地域性・アメニティへの配慮（白山市との地域連携、防災拠点、市内巡回バスの運行、保育所の併設）
 - LR1.2. 自然エネルギー利用（自然+機械ハイブリッド換気、自然光+人工光のハイブリッド照明）
 - LR1.3. 設備システムの高効率化（中央監視システム構築、センサー制御、LED照明）